NEWS RELEASE

セブン&アイHLDGS.
株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

2008 年 11 月 14 日

～京都市内に初登場！LED 照明看板や世界初の給湯システム～

環境・景観に配慮した店舗を出店！

～11/14（金）セブン-イレブン上賀茂榊田町店オープン～

株式会社セブン&アイ・ホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役会長　最高経営責任者〈CEO〉：鈴木敏文）傘下の株式会社セブン-イレブン・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者〈COO〉山口 俊郎）は、2008 年 11 月 14 日（金）京都市北区に、エネルギー効率の高い LED 照明看板を導入するとともに、京都市の景観に合わせ和風建築の趣を凝らした環境・景観配慮型の店舗「セブン-イレブン上賀茂榊田町店」を開店いたします。

このたびの「セブン-イレブン上賀茂榊田町店」は、地球環境にやさしい店作りと、世界に誇る京都の景観に合わせ、地域にとけこんだ店作りをコンセプトに店舗を設計してまいりました。先ず、環境面では環境負荷低減（CO2排出量の削減）を目標に、店頭看板やサインポール照明のLED化をはじめ、店内には世界初となる冷凍機廃熱を利用した給湯設備を、新たに導入いたしました。この取り組みにより、新規出店店舗の電気使用量は一店舗あたり158,000kwh/年（2007年度）から138,100kwh/年になり、昨年度と比較しても12.6%の削減（▲19,900kwh/年）が可能となります。また、一店舗あたりのCO2削減効果は、7.52t-CO2/年となります。一方、景観面では京都市の景観条例に則り、和風建築をモチーフに切妻屋根や緑地帯の設置、店舗の高さ、面積、色彩にも配慮した設計となっています。

当社は従来より、エネルギー効率の高い省エネ型設備を導入しており、店舗施設・設備の定期点検やメンテナンスを実施し、各店舗における電気使用量の削減に努めてきました。今年の 2 月には、長野県内に環境配慮型設備を集大成した実験店舗「セブン-イレブン長野吉田 2 丁目店」をオープンいたしました。

今回の店舗は環境配慮型店舗をさらに進化させたものであり、今後、全国での新規出店店舗の基本設計とするとともに、CO2 削減に邁進してまいります。

記

1.京都市内開店の環境・景観配慮型店舗の概要

■ 店　　名 ： セブン-イレブン上賀茂榊田町店

■ 開　店　日 ： 2008 年 11 月 14 日（金）

■ 住　　所 ： 京都市北区上賀茂榊田町 35 番 1

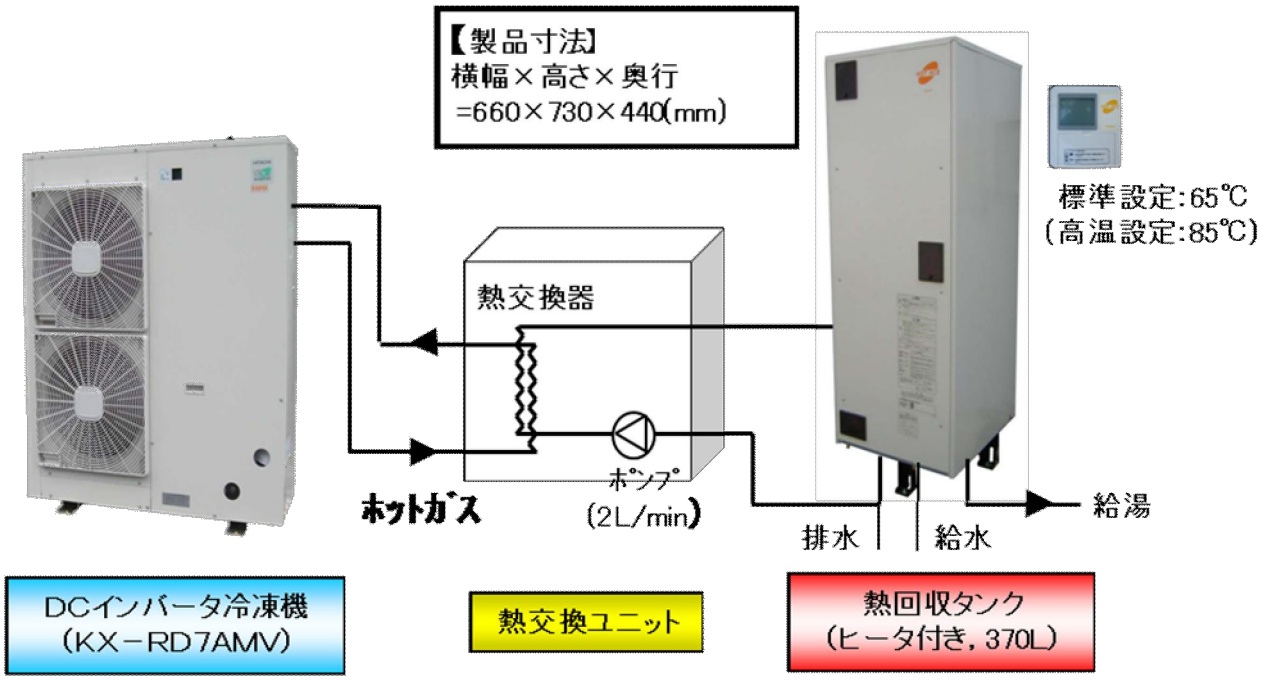
■ 営 業 時 間 ： 24 時間年中無休

2.当該店舗の LED 照明看板と削減効果

		京都 LED	蛍光灯使用	削減効果	
電力使用量	kwh/年	1,288	2,799	▲1,511	▲54.0%
電力料金	千円/年	21.9	47.6	▲25.7	▲54.0%
CO2 排出量	kg-CO2	486.9	1,058	▲571.1	▲54.0%

※京都以外の看板の設置面積が大きい店舗では、削減効果が約▲75%になります。

3.当該店舗の冷凍機廃熱を利用した給湯設備と削減効果



従来型電気温水器

(1) 電気使用量	6,900	Kwh／年
(2) CO2 排出量	2.61	t -CO2／年
(3) 電気料金	99,843	円／年

廃熱利用給湯設備

(1) 電気使用量	532	Kwh／年
(2) CO2 排出量	0.2	t -CO2／年
(3) 電気料金	7,698	円／年

削 減 効 果

(1) 電気使用量	▲6,368	Kwh／年
(2) CO2 排出量	▲2.41	t -CO2／年
(3) 電気料金	▲92,145	円／年

※廃熱利用給湯設備の導入で、従来型と比べ削減効果は約▲92%になります。

4.これまでのセブン-イレブン店舗の省エネ化の取り組み

環境配慮に関するセブン-イレブンの考え方

セブン-イレブンは、「24 時間営業・年中無休」という形態でコンビニエンスストア事業を営んでいます。しかしながら、創業当時、こうした長時間の営業形態に適合する設備機器は国内に存在しませんでした。そこで、1973 年の創業当初から設備機器メーカーをはじめとするお取引先様各社に協力を依頼し、陳列ケースや照明器具等、さまざまな設備機器を共同開発してきました。これらの開発にあたっては、お客様に気持ちよくお買い物をしていただけることと、従業員が使いやすくなることだけでなく、できるだけ消費電力を抑えることを条件とし、また、いったん開発した設備機器も、環境負荷低減をめざして継続的に改善を進めています。

5.セブン-イレブン店舗における省エネへの取り組み（沿革）

時期	内容	年間消費電力削減量
1977年03月	店内照明　照度の調整1000lx→800lx	▲ 8,760 kwh／年
1978年02月	リーチインドア枠に温度感知式の結露防止ヒーターを導入	▲ 7,530 kwh／年
1980年03月	省エネ型蛍光管の採用	▲ 1,752 kwh／年
1980年03月	店内照明に段調光の新店への採用	▲ 3,011 kwh／年
1980年04月	冷暖房の温度を固定　冷房：２８℃　暖房１８℃	▲ 6,607 kwh／年
1980年05月	店内照明を800lx→700lx	▲ 2,882 kwh／年
1981年03月	冷凍リーチインケースの断熱材の改善	▲ 7,008 kwh／年
1984年01月	空調暖房用ヒーターの廃止	▲ 1,923 kwh／年
1996年08月	吸気型空調機導入により換気扇を廃止	▲ 1,437 kwh／年
1997年11月	電灯・空調用節電装置導入	▲ 8,672 kwh／年
1998年01月	高断熱・高気密店舗の開店	▲ 1,927 kwh／年
1998年10月	チルド・ウォークインケースのインバータ式コンプレッサーの導入	▲ 4,175 kwh／年
1998年10月	空調機のインバータ式冷凍機の導入	▲ 2,065 kwh／年
2004年04月	オープンケースの運転制御	▲ 4,700 kwh／年
2007年03月	店内照明を効率的に配置とセラミックタイルの採用	▲ 2,750 kwh／年
2007年８月	IHおでんウォーマーの導入（2008年8月全店完了）	▲ 1,757 kwh／年
2007年11月	ウォークイン扉の結露防止ヒーターの廃止	▲ 3,483 kwh／年
2007年11月	ウォークインケース照明のインバーター化	▲ 964 kwh／年
2008年04月	冷凍機のDC方式の導入	▲ 6,650 kwh／年

以上